

英語 (筆記)

本番直前まで復習と弱点補強に努めよう。

I. 全体講評

今回の受験学年の平均点は126.5点であった。これまでも見られたように第2問の細かな知識を問う箇所には依然として課題を残したが、全体的に基礎から標準レベルと目される設問では取りこぼしが多く、かなり安定した力を示してくれた。特に第6問の長文問題の得点率が60%台後半に達し、無回答率を大きく下げた点は高く評価できる。このまま最後まで気を抜かず、センター試験本番には自信を持って臨んでほしい。過去のセンター試験本番レベル模試を続けて受けている人たちは、すでに自分の課題をはっきり認識していると思われるが、残されたわずかな期間にも弱点補強に努め、効率的なセンター対策に取り組んでほしい。

II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

頻出語を再チェックしよう！

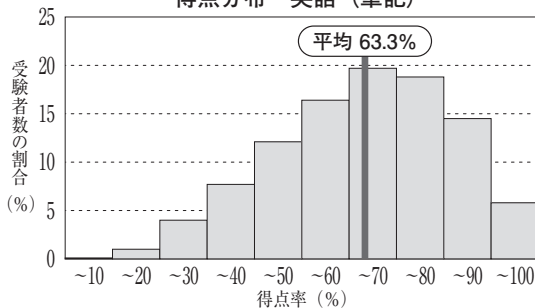
今回の第1問の得点率は64.0%で、平均的な成績であった。内訳を見ると、Aの発音問題の平均が68.5%だったのに対し、Bのアクセント問題が60.6%だった。小問別の正答率を見ても、Aでは全問50%台以上で安定していたが、Bでは1問のみ30%台という箇所があり、やや足を引っ張った。これはBの問4で4音節の単語のアクセント問題である。④secretaryのみ第1音節に最強アクセントがあり、他は第2音節である。②coordinateや③democracyを選んだ人もかなり多かったが、これらはアクセント問題では頻出の単語であるので、よく覚えておいてほしい。発音・アクセント分野に不安のある人は、基本的な発音のルールやアクセントの傾向を再チェックしよう。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

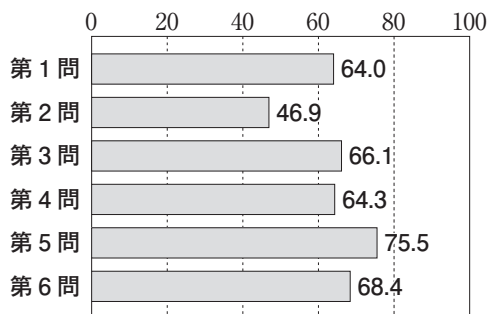
整序作文のテーマを見極めよう！

第2問の得点率は46.9%で、今回の大問の中では最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が55.8%、Bの整序問題が34.0%、Cの応答文完成問題が44.9%と、特にBが難しかったようだ。小問ごとの正答率を見ても、ばらつきが目立ち、Aは10%台から70%台、Bは3問とも30%台、Cは20%台から70%台までとなっていた。Aで10%台に終わったのは、問2のall aloneという表現の知識を問うものであった。このallは次の語句を強調して「全く」の意味を表す副詞であるが、all by oneselfなどでも使われる汎用性の高い用法なので、やや意外な結果であった。全体的に不振だったBは、比較や否定の構文が中心となっていた。この分野に不安がある人は、過去問を見直し、選択肢から何を問われているかを見抜けるよう繰り返し演習してほしい。

得点分布 英語 (筆記)



大問別得点率 (%)



第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約)**文の流れをつかむことに集中しよう！**

今回の第3問の得点率は66.1%で、まずまずの出来であった。内訳を見ると、Aの会話問題の平均正答率が67.8%で、不要文削除のBが63.6%、意見の要旨を選ぶCは67.5%と、どのセクションもバランスよく得点できていた。小問別に正答率を見ても、特に不出来だった箇所は見当たらない。この調子でセンター試験本番でも安定した成績を取ってほしい。Aは短い対話文の空所補充なので、なるべく素早い回答が望まれる。Bも短い英文だが、かなり本格的な読解力が試され、精読が求められる箇所である。しかし、戦略的に言えば、ここで多くの時間を費やすことは避けなければならない。表現の誤りを見つける必要はないので、文の流れを的確につかむことに集中しよう。Cも語数が多いが、要旨を把握するのが目的なので、それぞれの発言を一気に読み通すくらいであってほしい。ここで時間を節約できれば、後半のより本格的な文章問題にも対処しやすくなるだろう。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り**パラグラフ内のヒントを大事にしよう！**

第4問の得点率は64.3%で、全体平均に近い標準的な成績だった。A、Bの内訳も、ほぼこれと同じ数値を示していたので、バランス的にもよかった。ただし、小問別正答率を見ると、Aには40%台が1問、Bには30%台が1問あった。Bでは簡単な計算を含む問3が手強かったようだ。Aについては、最終パラグラフに続く内容を推測させる最後の問題がもう一步であった。文脈把握力を試すという意味では、こちらのほうが重要かもしれない。この設問にはパラグラフ内に何らかのヒントが与えられている。今回は、実験会場で生徒と親の質問に科学者が答える場面を記述しながら、生徒の質問内容を紹介するのみで終わっている。したがって、これを手がかりに親からの質問に言及した①を選ぶべきであった。センター試験本番でも、こうした意識をもって解答にあたってほしい。

第5問 物語文の読解**この調子で、本番に臨むようにしよう！**

今回の第5問の得点率は75.5%で、今回の大問中最高の成績だった。小問別の正答率も、60%台

から80%台に及び、高いレベルで安定していた。この大問では、センター試験のすべての大問の中で最も語数の多い本文に対処しなければならない。しかし、長文とは言え、特に風変わりな内容でなければ、ストーリーの大筋を把握するのにさほどの苦労はないだろう。前回までは、このあたりから無回答率が高くなってきていたが、今回はかなり改善された。センター試験本番でも、終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答するかを念頭に置いてほしい。

第6問 説明的文章の読解**最後の難関をうまくこなしていた！**

第6問の得点率は68.4%で、第5問に次ぐ好成績だった。この時期に来て、最後の長文問題でこれだけの成績を残したことは高く評価できる。小問別の正答率を見ても、50%弱から80%ほどに及び、パラグラフ毎に見出しを選ぶ最後のBでも70%に達する高率を示した。第2問などで苦戦した割には非常に安定していたと言える。これまで大きな課題であった無回答率もかなり下がった。今回の好成績も全体的な時間配分が適切に行えるようになった結果であろう。センター試験本番にも、ぜひこの調子で臨んでほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

最後の学習アドバイスとして、第6問に一言触れておこう。本番直前の時期であるから、実践的な心得を述べておきたい。この読解問題の素材は数年前に物語文から説明文に変わった。説明文は客観的情報をもとに筋道がはっきりしている点では読みやすい。そこで、何よりもパラグラフ単位の内容理解と解答を心がけてほしい。時間は限られているので、パラグラフ毎に設問と照らし合わせ、A、Bのどちらでも解答可能な設問はそこで処理したほうがよい。多少自信がなくても、とりあえずの結論を出して無解答を避けよう。また、説明文に特有な難しい単語や硬い表現もあるだろうが、知らない語句に出くわしても、およその意味を推測できれば十分である。大切なのは全体の文脈で、必要以上に細部にこだわることはない。時間さえ確保できれば、それほど難問ではないことを忘れないでほしい。受験生諸君の健闘を祈る。